

1 文献名
『百年のあゆみ 尾鷲市立九鬼小学校』
2 学校名
九鬼小学校
3 災害名
昭和 19 年（1944 年）昭和東南海地震
4 記述の概要
(1) 雨や風、地震などの様子
九鬼村では、宮のはなをまわって津波が湾内に押し寄せた。(P51)
(2) 学校内や地域の被害の状況
地震は家をうち砕き、津波は家財道具もろとも海中へさらっていった。 学校の下町のようすは、さんたんたるもので建具、家具などが通りをうずめ、容易に歩くことができなかった。下の町では、わが子の安否を気づかい、大声で泣き叫ぶ親たちの声がこだました。 学校では、四年以上が授業中で、学用品が床に散乱するなど大変なありさまだったが、きわめて沈着に行動した。三年以下の子どもたちは放課後で野山や運動場で遊んでいる中だった。(P51)
(3) 復旧の様子
家を失った被災者たちは、学校の講堂を家庭ごとにイスで仕切ってしばらくの間、寝泊まりした。 全国各地から救援物資が九鬼にもよせられ、たいへん感謝された。(P51～52)
(4) 体験談
(5) 教訓など
津波の潮の流れをいち早く発見した警防団の人たちの誘導で国民学校や高台に避難したため、他の町村とくらべると死者は少なかったが、それでも 4 人の命がうばわれた。(P51)
(6) その他